

ナシ類の開花は昨年より 7 日程度早い状況です。開花期間中の強風等により南水等で結実不良が心配されます。今後は、結実状況やサビ等をよく確認し、予備摘果等の管理作業に入ってください。初期の養分競合回避による肥大促進のため、生育の早い本年は特に早めの摘果作業を心がけてください。

ケムシ類・アブラムシ類等の初期防除及び黒斑病・黒星病・腐らん病感染予防のため、5 月下旬までは約 12 日間隔で薬剤散布を進めてください。尚、詳細は下記を読みください。

◆ 和梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に注意する）

4 月末～5 月初旬の薬剤散布（前回から約 12 日後）

散布時期：4/27～5/2 頃（左記の時期は目安です）

散布薬剤

水	1 0 0 リットル
展着剤	2 0 ml
スコア顆粒水和剤	5 0 g（14 日前、3 回）
モスピラン顆粒水溶剤	2 5 g（前日、3 回）＊注意事項②参照

対象病害虫：黒斑病、輪紋病、アブラムシ類、シンクイムシ類、カイガラムシ類、カメムシ類

散布量：10 a 当たり 350 リットル

～注意事項～

- ① 訪花昆虫保護のため、指定薬剤及び時期を厳守してください。
- ② アブラムシ類の発生が目立つ場合は、今回の散布を早める。

◆ 散布日： 月 日

◆ 散布量： リットル

5 月中旬の薬剤散布（前回から約 12 日後）

散布時期：5/10～15 頃（左記の時期は目安です）

散布薬剤

水	1 0 0 リットル
展着剤	2 0 ml
トレノックスフロアブル	2 0 0 ml（30 日前、5 回）
ハチハチフロアブル	5 0 ml（14 日前、2 回）

対象病害虫：黒斑病、黒星病、赤星病、アブラムシ類、クワコナカイガラムシ

散布量：10 a 当たり 350 リットル

～ 注意事項 ～

- ① 訪花昆虫保護のため、指定薬剤及び時期を厳守してください。
- ② アブラムシ類の発生園が目立つ場合は、今回の散布を早める。

◆ 散布日：5 月 日

◆ 散布量： リットル



西洋梨の定期防除は裏面をご覧ください。

◆ 西洋梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に注意する）

5 月初旬の薬剤散布（前回から約 12～14 日後）

散布時期	5/1～5（左記の時期は目安です）
散布薬剤	水 1 0 0 0 当り 展着剤 1 0 mℓ ベンレート水和剤 5 0 g（前日、4 回） モスピラン顆粒水溶剤 2 5 g（前日、3 回）
対象病虫害	輪紋病、胴枯病、（腐らん病）、アブラムシ類
散布量	10 アール当り 400 リットル
注意事項	① 訪花昆虫保護のため、指定薬剤及び時期を厳守してください。 ② アブラムシ類の発生が目立つ場合は、今回の散布を早める。 ③ 腐らん病感染拡大防止のため、病斑部にトップジンMペースト等を塗布する。

◆ 西洋梨 5 月上中旬の重点作業

◆ 散布日：5 月 日

◆ 散布量： リットル

① 主枝・側枝誘引

● わい性台樹

次年度の花芽着生促進と側枝を太らせないために必ず実施する。

● 普通樹

主枝候補枝の誘引。オーロラは 45 度、ラ・フランスは 30 度を目安に誘引する。

② 予備摘果（満開 10 日後 から始める。5/1 頃～）

● 結実状況を確認したら早急に実施する。（初期肥大促進）

● 基本的に弱い果そうは摘果するが、花芽が少ない場合は弱い果そうも利用し着果量を確保する。

③ 腐らん病対策

● 2 月から早期多発傾向です。梅雨に入る前に早めの病斑部の削り取り等の抑制対策を講じてください。

● 病斑を放置しておく と、感染拡大します。見つけしだい削り取り処理や切除を至急行ってください。

● 削り取り後は、塗布剤（トップジンMペースト等）を塗布する。また、大きなせん定の切り口等の感染源保護も確実に行ってください。

